

公民館にティラノサウルス ^{あらわ} 現る！



ズンカ、ズンカと大きな足音を立てて、公民館がつぶされる？「ギャー、助けてー」ではありません。実は、紀美野町の^{みおがわ}三尾川にあるアンフィ合同会社の協力を得て実現した、青少年センター^{きかく}企画なのです。

この会社は3D プリンターを生かして博物館や水族館などの展示物のレプリカを製作する会社で、紀美野町文化センターにあるティラノサウルスの^{ちけい}模型もここか

ら^{きそう}寄贈されたものです。

町内から申し込みのあった小学生9人に、真っ白い手のひらサイズのティラノサウルスが^{くぼ}配られました。3D プリンターで20体のレプリカを作成するのに、2週間を^{つい}費やしたそうです。同じものを作成したのでこれでも早いほうだと説明してくれました。

そのあと、アクリル絵の具が配られ、いよいよ色^{いろ}塗りに^{ちようせん}挑戦。どんな色のティラノサウルスができるか楽しみです。^{むらさき}紫や青から塗り始める子どももいれば、何色か色を^ま混ぜて塗り始める子どももいます。どの子も^{しんけん}真剣なまなざしで、声をかけるのもためらうほどです。

30分を過ぎるとティラノサウルス全体に色が塗られて、完成に近づきました。お腹^{なか}の部分が塗りにくそうです。目の部分は、つまようじで仕上げるとよいとアドバイスしてくれました。^{あたた}温かみのあるオレンジのティラノサウルス、コバルトブルーやパープルのかわいら



しいティラノサウルス、中には、^{すかん}図鑑などに出てくる本物そっくりのティラノサウルスも出現しました。今や、公民館は、^{きようりゅう}恐竜の世界と化しています。

子どもたちは、^{こんばん}今晚きっと、恐竜たちの夢を見ることでしょう。

(令和4年5月29日)

